

立正大学学長
寺尾 英智 殿

海外派遣報告書

所属・職名 文学部文学科日本語
日本文学専攻コース・教授
氏名 葉名尻 竜一

派遣先	University of Wisconsin-Madison
派遣期間	2023年8月5日 ～ 2023年11月30日
派遣期間中における 教育研究活動の実績 もしくは 教育研究活動の促進 に資する実績等	<p>① 派遣の目的</p> <p>演劇、映画、文学など多岐にわたる分野で活躍し、その革新的なスタイルと社会に対する批評的な視点で1960、70年代のカルチャーにおいて重要な役割を果たした寺山修司の創作活動を、アメリカでのカウンターカルチャー研究を踏まえて捉え直すことを目的とする。その上で、日米両国の研究者達による学術交流の場を設け、それを機に国際的な研究ネットワークの構築を目指す。</p> <p>② 研究活動・教育活動の内容</p> <p>アメリカにおける寺山修司研究はウィスコンシン大学マディソン校東アジア言語文化学科のステイブン・リジリー教授によって推進されており、その研究は文化的な枠組みを超えたアヴァンギャルド芸術への深い理解と学際的な視野を広げるのに貴重な貢献をしている。受け入れ教員であるリジリー教授と定期的に面談をし、寺山修司の作品の革新性と文化的影響関係について議論を行った。秋学期のLITTRANS373: Topics in Japanese Literature、ASIAN378: Animeの講義にも参加して、多様性とポストヒューマンとを観点とした考察を聴く。現代日本文学ならび日本のアニメーションのアメリカでの受容とその研究は、1960、70年代の日本のカルチャーを地理的、時間的に相対化し、カウンターカルチャーとアヴァンギャルド芸術の交差点における学術的な洞察を促進するのに繋がった。聴講に並行して、リジリー教授の所持する資料の調査を行いながら、国際シンポジウム開催のための準備を進めた。シンポジウム当日はウィスコンシン大学の大学院生が通訳を担い、立正大学の大学院生も対面で参加してくれた。</p> <p>③ 成果（実績の公表予定等）</p> <p>派遣期間中の11月3、4日の2日間、ウィスコンシン大学の東アジア研究センターとの共同主催で「没後40年 寺山修司の質問を問い直す」をテーマに、対面・オンライン併用の国際シンポジウムを執り行う（基盤研究(C)20K00301）諸事情による変更もあったが、さっぽろ寺山修司資料館代表によるオンデマンド講演をはじめ、シンポジウム全体の企画制作をした。自身でも渡米後の議論と調査を反映させて題目「「質問」する短歌」で研究発表を行い、2024年度には立正大学人文科学研究所以での定例発表会と投稿を予定している。また2024年6月に来日予定のリジリー教授との企画も準備中である。</p>

2024年8月7日

立正大学学長
寺尾 英智 殿

海外派遣報告書

所属・職名 法学部 教授
氏 名 高橋 賢司

派遣先	ミュンヘン大学法学部 労働法労使関係研究所
派遣期間	2023年4月1日 ～ 2024年3月31日
派遣期間中における 教育研究活動の実績 もしくは 教育研究活動の促進 に資する実績等	<p>① 派遣の目的 ドイツ・ミュンヘン大学法学部労働法労使関係研究所における労働法における平等について研究。</p> <p>② 研究活動・教育活動の内容 EU法、ドイツ法、日本法を比較する原稿を作成した。EU法、ドイツ法とも、人種、出自、信仰、性別、性的アイデンティティ、年齢を理由とした差別について、判例が形成されており、欧州司法裁判所の判例と学説、ドイツの連邦労働裁判所等の判例と学説を調査し、差別禁止について深く研究した。</p> <p>9月には、ベルリンで、ベルリン労働裁判所フィーツ判事にインタビューを行い、ドイツにおける一般平等取扱法の裁判実務の現状を調査した。また、ベルリン（9月15日）で行われたドイツ使用者連盟、独日労働法協会のシンポジウムに参加し、講演を行った。また、10月には、独日労働法協会編の本において、労働契約に関する論文（ドイツ語）を公表した。さらに、ミュンヘン大学のシンポジウム（3月8日）において、労働者派遣についてミュンヘン大学法学部のフランツェン教授とともに講演を行い、日独の差異と共通点について検討した。今回の在外研修を通じて、平等、労働契約について研究を深めることができた。特に、シンポジウムでの講演を通じて、学際交流や国際交流を行うことができた。</p> <p>③ 成果（実績の公表予定等）</p> <ol style="list-style-type: none">Kenji Takahashi, Die Gestaltung des arbeitsvertraglicher Regelung im japanischen Recht, in: Düwell u. Haase (Hrsg.), Arbeit und Recht im Wandel 25 Jahre Gesellschaft für Arbeitsrecht in Deutschland und Japan, Delgany Publishing, Hamm (Germany), 2023, S. 95-102.高橋賢司「ドイツ労働法における政治的な排外主義とヘイトスピーチ禁止」季刊労働法 286号（秋号）掲載予定高橋賢司「EU法、ドイツ法における人種・民族的出身を理由とした差別禁止」立正法学論集 58巻1号掲載予定

以上